

令和2年度国立政策研究所 教育課程研究指定校事業

課題：中学校社会科

島根大学教育学部附属義務教育学校 後期課程

研究の概要

研究主題 「深い学び」を実現する“問い”づくり
～社会科の概念的な知識を活用した課題を解決する
思考力・判断力の育成とその評価の在り方～

研究主題の設定理由

・平成29・30年度 国立政策研究所教育課程研究指定校事業

「3分野の概念的な知識の系統化」・「“単元を貫く問い”を盛り込んだ単元構造図の作成」により「『深い学び』の実現」を目指した。

・令和元年度 国立政策研究所教育課程研究指定校事業

「どのような“問い”をもつことができれば、社会科の概念的な知識を活用して課題解決に向かうことができるかに焦点を当てて、思考力・判断力の育成と評価の在り方」により「『深い学び』の実現」を目指した。

・令和2年度 国立政策研究所教育課程研究指定校事業

「“問い”に焦点を当てて、思考力・判断力の育成とその評価の在り方」を実践し、「『深い学び』の実現」を目指した。

研究主題の捉え

「深い学び」を実現する“問い”づくり

～社会科の概念的な知識を活用した課題を解決する思考力・判断力の育成とその評価の在り方～

○「深い学び」とは、

単元の目標を実現する「単元を貫く問い」を探究しつつ、基礎的・基本的な知識及び技能の習得のため、いくつかの「問い」の構造化を図り、「単元を貫く問い」をまとめることによって、事象の相互の関連を図り、概念的な知識の習得を目指す学びである。

○「深い学び」が実現する“問い”づくり

(a) 単元を貫く「問い」の設定、(b) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得のためのいくつかの「問い」の構造化、単元（内容のまとめ）において(c) 習得した概念的な知識を活用できる「問い」の設定が大切である。さらに、「社会的な見方・考え方」を活用していることは欠かせないことである。

研究の目的

- ・ 「問い」の構造化を図り、「社会的な見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現を目指す。
- ・ 「単元を貫く問い」をまとめる（記述式）ことなどによって、思考力・判断力の育成とその評価の在り方を検討する。

研究の内容

授業実践より「深い学び」を実現するための、「単元を貫く問い」の捉えを、以下の3つと考えた。

- (1) 単元の目標を実現するために、小単元において中心となる問い。
- (2) 単元で習得した基礎的・基本的な知識を活用できる問い。
- (3) 「社会的な見方・考え方」を働かせることができる問い。

研究の内容

授業実践より「深い学び」を実現するための、「単元で習得した概念的な知識を活用できる問い」の捉えを、以下の3つと考えた。

- (1) 単元で習得した概念的な知識を活用できる問い。
- (2) 「社会的な見方・考え方」を働かせることができる問い。
- (3) 多面的・多角的に考察できる問い。

研究の仮説

単元の目標を実現する「単元を貫く問い」を探究し、まとめ、習得した概念的な知識を活用して、新たな問いを探究すれば、

「思考力・判断力」の育成とその評価の在り方を示すことができるであろう。

実践事例 世界の諸地域

単元: アフリカ州

【単元の目標】

- アフリカにおける食料問題は、急増する人口、砂漠化、植民地支配された歴史、不安定なモノカルチャー経済などの影響を受けて、他地域よりも深刻化していることを理解する。
- アフリカ州の自然、気候、人口、歴史的背景、モノカルチャー経済、紛争、資源などの地域を特徴づける要素に着目して、食料問題や地域の将来などについて多面的・多角的に考察し、表現する。
- アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野に食料問題の要因や影響を主体的に追究しようとする態度を養う。

実践事例 世界の諸地域

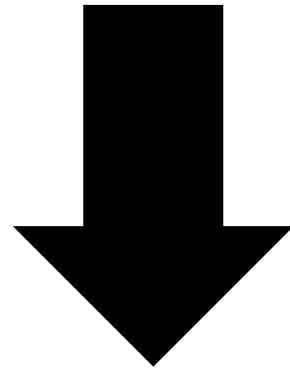
小単元: アフリカ州

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
アフリカにおける食料問題は、急増する人口、砂漠化、植民地支配された歴史、不安定なモノカルチャー経済などの影響を受けて、他地域よりも深刻化していることを理解している。	アフリカ州の自然、気候、人口、歴史的背景、モノカルチャー経済、紛争、資源などの地域を特徴づける要素に着目して、食料問題や地域の将来などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野に食料問題の要因や影響を主体的に追究しようとしている。

「思考力・判断力」の育成とその評価の在り方

- 単元を貫く問い＝なぜアフリカは、農業人口が多いのに食料問題が深刻化しているのか。



1時間目から4時間目へ
いくつかの問いの構造化

- ① 単元を貫く問い（のまとめ）＝アフリカは、なぜ食料問題が深刻化するのか、その原因を学習したことをもとにまとめる。



5時間目へ

- ② 習得した概念的な知識を活用できる問い＝なぜ、近年、外国企業のアフリカ進出が増えているのだろうか。

①・②の評価場面の評価規準

「思考・判断・表現」の評価規準

①アフリカ州の自然、気候、人口、歴史的背景、モノカルチャー経済、紛争、資源などの地域を特徴づける要素に着目して、食料問題について多面的・多角的に考察し、表現している。

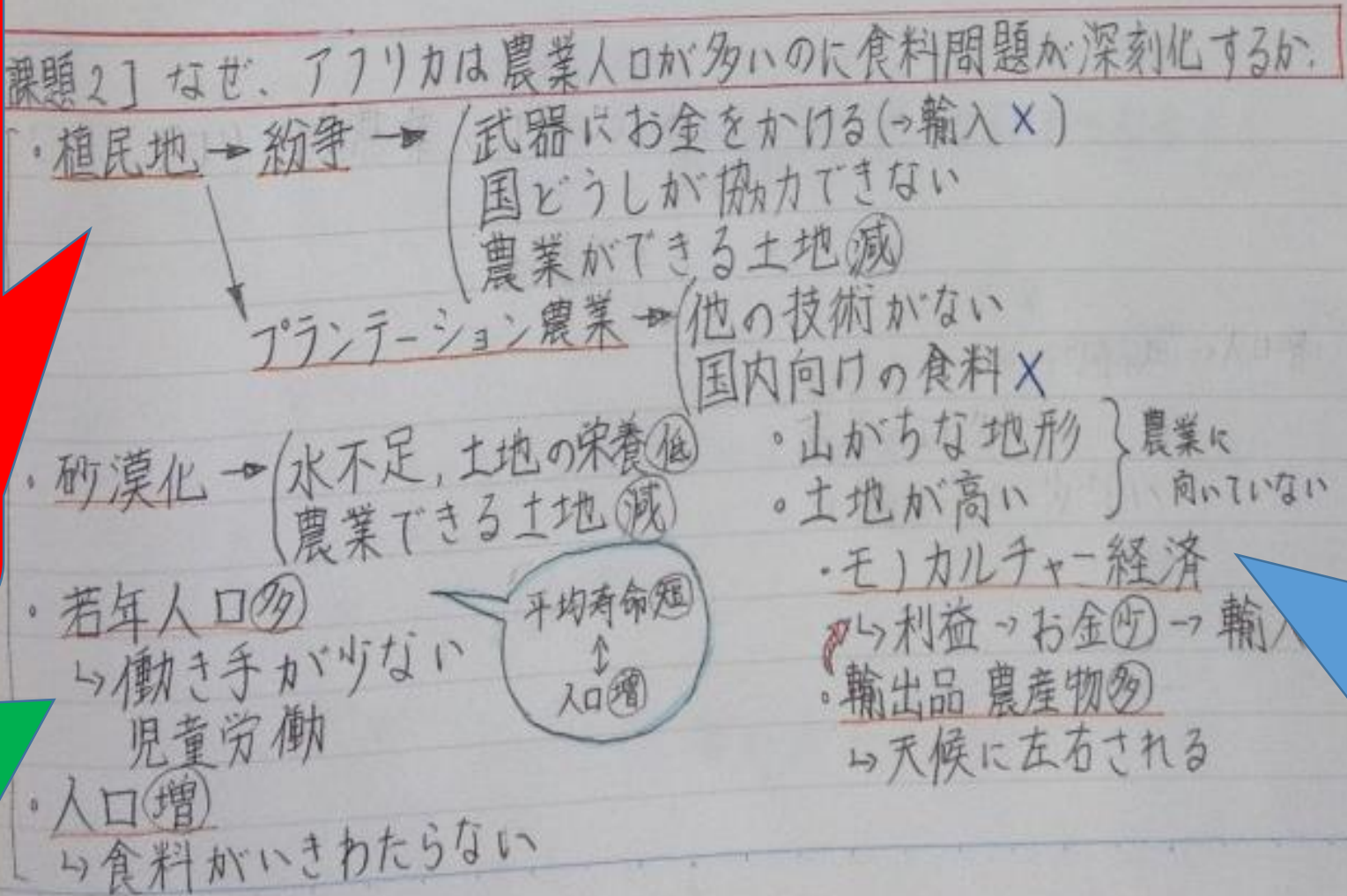
②アフリカ州の自然、気候、人口、歴史的背景、モノカルチャー経済、紛争、資源などの地域を特徴づける要素に着目して、食料問題や地域の将来などについて多面的・多角的に考察し、表現している。

授業実践の評価について（1）

【①の評価場面】

- 4時間目である単元を貫く問い「なぜアフリカは、農業人口が多いのに食料問題が深刻化しているのか。」について考察する活動では、1時間目から4時間目まで学習した自然、気候、人口、歴史的背景、モノカルチャー経済、紛争、資源などの地域を特徴づける要素をもとに、深刻な食料問題の原因をまとめる。
- この活動では、厳しい自然と食料問題では「地域」といった見方・考え方を働かせながら砂漠化を原因と考えた。他にも人口増加と食料問題では「場所」といった見方・考え方を働かせながら低年齢人口の増加による食料不足を考えることができた。様々な原因によって引き起こされているからこそ、食料問題は深刻であると深く学ぶことができた。

評価場面① 生徒Aの答え



植民地であったという歴史的背景と、紛争の多さやプランテーション農業といった地域的特色を関連付けて示している。

植民地時代の民族を無視した国境が紛争の原因となり、食料問題の解決の妨げとなっていることなどを示している。

モノカルチャー経済は利益つまりお金が儲からない。だから食料を輸入できない。さらに輸出品は天候に左右される農作物が多い。

他地域との結び付きに着目して、食料問題の要因について説明している。

様々な原因によって引き起こされているからこそ、食料問題は深刻であると深く学ぶことができた(生徒Aの図式より)。

評価場面① 生徒Bの答えの1

- 砂漠がどんどん多くなり、農業をする場所が減っていて、さらに人口は増え続けているため、人口に対する食糧の量が、土地生産性・労働生産性が低いため足りていない。

- 昔、植民地にされた時に、地図上で分けられ、その境界線を国境にしてし
て、 技術者が絶えず、農業が行いずらく、外国からも技術者
いる。

食料問題がなぜアフリカという土地に起こるのか地域の枠組み中で地域の環境条件と結び付く人間の営みに着目して考えている。

影響で、そのころ行っていたプランテーション
、今も生産し続けていて、紛争によって、今の
っている。そして、ほとんどの国がモノカル
格が変わることで経済が不安定になると、その
なってしまう。若年人口がかなり多く、そのほ
働いている。

評価場面① 生徒Bの答えの2

- 砂漠がどんどん多くなり、農業をする場所が減っていて、さらに人口は増え続けているため、人口に対する食糧の量が、土地生産性・労働生産性が低いため足りていない。
- 昔、植民地にされた時に、地図上で分けられ、その境界線を国境にしてしまったため、民族の争いが絶えず、農業が行いずらく、外国からも技術者を呼びにくい状態になっている。
- さらに植民地だったことの影響で、農業で生産していたものを、今も生産産業を変えるのは難しくなっている。チャー経済のため、市場価格が変わ年に必要な食糧を買えなくなってしまう。右半人口がかならず、このほとんどの方が働き手として働いている。

政治・経済の混乱の歴史的な背景に触れ、食料問題の要因について考察している。

評価場面① 生徒Bの答えの3

- 砂漠がどんどん多くなり、え続けているため、人口が低いため足りていない。
- 昔、植民地にされた時に、まったため、民族の争いを呼びにくい状態になっている。
- さらに植民地だったことの影響で、そのころ行っていたプランテーション農業で生産していたものを、今も生産し続けている、紛争によって、今の産業を変えるのは難しくなっている。そして、ほとんどの国がモノカルチャー経済のため、市場価格が変わることで経済が不安定になると、その年に必要な食糧を買えなくなってしまう。若年人口がかなり多く、そのほとんどの人が働き手として働いている。

なぜ、食料問題が深刻化するのかわかりにくく、他地域との結び付きなど人間の営みとのかかわりに着目して考えている。

人口は増
生産性が

にしてし
も技術者

以上の3枚のスライドから、様々な原因によって引き起こされているからこそ、食料問題は深刻であると深く学ぶことができた（生徒Bの文章より）。

授業実践の評価について（2）

【②の評価場面】

- 5時間目の「なぜ、近年、外国企業のアフリカ進出が増えているのだろうか。」について考察する活動では、単元の学習を通して習得した概念的な知識を活用して、アフリカの将来についての新たな問いについて考察する。アフリカの未来と将来の日本との関係についても関心をもってもらいたいと思い、この問いを設定した。
- さらに研究と実践の関係について、「様々な原因によって引き起こされているからこそ、食料問題は深刻である」という概念的な知識も活用して「なぜ、近年、外国企業のアフリカ進出が増えているのだろうか」の考察をし、アフリカのレアメタル輸出（空間的相互依存作用）、環境保全と経済発展（人間と自然環境の相互依存関係）などに着目し地理的な見方・考え方を働かせながら、アフリカの地域的特色をより深く学ぶことができたと考える。

評価場面② 生徒Cの答え

レアメタルを含む豊富な鉱山資源の存在という地域的特色についての知識を活用して、アフリカの将来を考えている。

- ・ 豊かな鉱山資源が多く、その中にはレアメタルもあり、外国企業が進出する魅力がある。
- ・ しかし、アフリカには資源があっても、加工する技術がない。そこで外国企業が進出して、製品化して輸出すれば企業は儲かる。

「なぜ、アフリカは食料問題が深刻化するのか」をまとめ、習得した「農産物や資源などの輸出に依存するモノカルチャー経済が続き、工業が未発達である」という知識を基に、「なぜ、近年、外国企業のアフリカ進出が増えているのか」という新たな問いに「資源の加工が難しいのではないかと考え、外国企業の進出の要因としてあげている。

アフリカ州の食料問題を中心とする人々の生活の営みから、別のアフリカの魅力を考察し、未来のアフリカを考え、より深く地域的特色を理解できた。

研究の成果と課題

【成果】

- ・単元の目標を実現するために設定した「単元を貫く“問い”」について探究し、単元の後半でまとめることで、概念的な知識の習得ができた。
- ・単元の目標を実現するために設定した「単元を貫く“問い”」を探究し、単元の後半で、まとめることで、社会的な見方・考え方を働かせて考察することができた。
- ・アフリカ州の単元において「単元で習得した概念的な知識を活用する“問い”」を設定し、深い学びを生み出すこと、評価について実践することができた。

【課題】

- ・他の単元でも「深い学びを実現する問い」を生み出していくこと。